

# 文化力と価値創造に関する特別委員会 議事次第

令和6年5月23日（木）  
午後1時30分～  
於：第4委員会室

1 開 会

2 中間報告

3 委員会活動のまとめ

4 そ の 他

5 閉 会

## 文化力と価値創造に関する特別委員会 出席要求理事者名簿

【知事直轄組織・知事室長】	
※国際課長	山本 隆裕

【総合政策環境部】	
※地域政策室参事	池松 達人

【文化生活部】	
文化生活部企画調整理事兼副部長(文化振興担当)	田中 圭一
※文化政策室長	梅原 和久
文化政策室企画参事	須田 建太郎
※文化芸術課長	駒寄 忠大

【商工労働観光部】	
※観光室参事	山中 賢
※産業振興課参事	笠原 和史
※染織・工芸課長	草分 隆司

【農林水産部】	
※流通・ブランド戦略課長	加茂 雅紀
農産課参事	浅野 智士

【教育委員会】	
高校教育課長	水口 博史
文化財保護課長	石崎 善久

( 計 13 名 )

※ 議事内容に応じ、必要な理事者を適宜追加

※ 新任理事者

(案)

令和6年5月 日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

文化力と価値創造に関する特別委員長 山 口 勝

文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和5年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。



(別紙)

## 文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

### 1 本委員会の設置目的

伝統文化、生活文化などの継承・発展や文化と観光、食、伝統産業、先端産業などあらゆる分野との融合により、新たな価値を創造し、発信するための施策について調査し、及び研究する。

### 2 本委員会の活動状況

#### (1) 委員会の開催について

- 令和5年6月15日、第4委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和5年7月3日、第4委員会室において、文化庁 参事官（生活文化創造担当）食文化推進本部事務局長 高田 行紀 氏を参考人として招致し、「文化庁の京都移転と今後の文化施策の展開について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から食文化や地域文化に関する取組等について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和5年9月29日、第4委員会室において、ふじのくに地球環境史ミュージアム 館長、京都府立大学 京都和食文化研究センター 客員教授 佐藤 洋一郎 氏を参考人として招致し、「食文化の継承と活用について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から京都の食文化の継承の重要性と課題についての説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和5年12月19日、第4委員会室において、立命館大学 映像学部 教授 細井 浩一 氏を参考人として招致し、「メディア文化と先端テクノロジーの融合による融合によるコンテンツイノベーションの創出について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人からコンテンツ分野の活性化と地域振興に関する取組等について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年3月19日、第4委員会室において、学校法人瓜生山学園 常務理事、京都芸術大学 空間演出デザイン学科 教授 大野木 啓人 氏を参考人として招致し、「アートとテクノロジーの融合による新たな文化と産業の創造について」

をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から新たな文化と産業のあり方とそれをテクノロジーがサポートしていく必要性について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

○ 令和6年5月 日、第4委員会室において、 \_\_\_\_\_

## (2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和5年8月22日

調査先：福岡市役所（福岡県福岡市）〔於：Artist cafe Fukuoka〕

調査事項：「Fukuoka Art Next」の取組について

福岡市は、アジアとの玄関口として発展し、培われてきた文化的土壌のもと、国家戦略特区・スタートアップ都市の実績やアジアに近い地理的優位性などを活かして、令和4年4月、福岡市美術館や福岡アジア美術館のこれまでの取組をさらに発展させ、彩りにあふれたまちを目指す「Fukuoka Art Next」を始動させた。「アートのある暮らし」として、アートの持つ価値と魅力を市民が再認識し、国内外に発信し、市民の well-being の向上を図るとともに、アーティストの創造活動・交流を通してアーティストが成長し、福岡発アーティストの世界での活躍を支援する事業を「アートスタートアップ」として展開し、アートの力による、都市の成長と生活の質の向上の好循環を創り出し、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指すまちづくりに取り組んでいる。

令和4年度にはアートのまちづくりを担当する部署を新設し、産・学・官連携による取組を推進している。「アートのある暮らし」の取組では、市内21会場に136作品の展示会を実施し、市民がアートを鑑賞・購入する機会を創出するとともにアーティストの成長にも繋げ、また、まちの賑わいも創出している。また、「アートスタートアップ」の取組では、官民共同で「アートフェア福岡」を開催し、国際的信用を高めるとともに有名ギャラリーの出展を促進している。また、アーティストの成長・交流拠点とした開設した「Artist Cafe Fukuoka」では、アーティストの交流だけでなく、専門性の高い相談にも対応する体制を整えたところ、想定を超える数の相談があり、アドバイザー常駐へと変更し、体制を強化している。今後も実績を踏まえて仕組みを整えながら、都市と人とアートをつなぐ拠点づくりに取り組んでいくとのことであった。

○調査日：令和5年8月22日

調 査 先：大野城市役所（福岡県大野城市）〔於：大野城心のふるさと館〕

調査事項：大野城心のふるさと館での先端テクノロジーを使った取組について

大野城心のふるさと館は、「歴史」「こども」「にぎわい」をキーワードに、「市民の心にふるさと意識を醸成する施設」「ふるさと大野城を次代につなぐための市民交流、市内外への情報発信、にぎわい創出の拠点施設」として、平成30年7月21日に開館した。管理・運営は市の直営で、心のふるさと館を1つの課とし、文化財の保護・活用等の担当も一般的な教育局ではなく、心のふるさと館で一括して行っている。

施設は、フロアごとにテーマを設け、1階は楽しく学ぶ「遊び場」、2階は広く学ぶ「学び場」、3階は深く学ぶ「調べ場」とした展示を行っている。特徴は先端テクノロジーを活用した展示で、「大野城タイムライン」は、旧石器時代から近現代の実物の展示に独自画像のAR表示やタッチパネルでの解説を行い、「水城・大野城シアター」では、復元模型にプロジェクションマッピングによる映像を重ねて当時の様子を再現し、ペンライトで照らすと浮かび上がる仕掛け等の参加体験型展示を行っている。また、市内の各小中学校が心のふるさと館で学習を行う「学校連携事業」においても、床面に描いている大野城市の地図にタブレットを使って航空写真を映し出す「ここふるAR」を活用し、子どもたちがふるさとについての学びを深める機会を提供している。

さらに、令和4年度には、水城跡をより知ってもらうために、360度コントローラーを自身で操作できる仮想空間での見学を楽しむVRコンテンツも制作している。開館5周年を迎え、さらに市民に親しまれる施設づくりに、より一層取り組んでいくとのことであった。

○調 査 日：令和5年8月23日

調 査 先：古民家宿泊施設「HOTEL CULTA 大宰府」（福岡県太宰府市）

調査事項：歴史的資源を活用したまちづくりについて

HOTEL CULTIA 太宰府は、西日本鉄道（株）、三井住友F&L（株）、（株）福銀行などで設立した特定目的会社である（株）太宰府Co-Creationが、古民家所有者から物件を賃借し、改修したホテルで、その運営をバリューマネジメント（株）が行っている。

バリューマネジメント（株）は、主に歴史的建造物の利活用や観光まちづくりのコンサルティングを行っており、少子高齢化により地域の人口減少が進み、大切な歴史や文化が失われていくことに危機感を持ち、民間の力を利用して歴史的資源を保全・活用する事業を進めている。宿泊事業では、今までのホテルでは建物内を移

動するだけで地域にお金が落ちないことから、まち全体をホテルに見立て、歴史的建造物をはじめ、市内に分散する空き家を活用して部屋数を確保し、徒歩で移動することにより回遊性も生み出す分散型ホテルをビジネスモデルとしている。

太宰府市は、年間約1,000万人が訪れる観光地であるが、通過型の観光地であったため、地域事業者や行政が手を組み、滞在型観光にしようと太宰府天満宮周辺の歴史的資源である古民家を活用した分散型ホテル事業に取り組み、HOTEL CULTIA 太宰府が建設された。ホテル宿泊者限定で太宰府天満宮夜間正式参拝などの特別体験プログラムを実施するなど、多くの方に来てもらう観光ではなく、高付加価値を提供し、少人数でも繰り返し来てもらう観光を目指している。

観光客だけでなく、地域の方にとっても必要な場所となるよう、記念日などに利用するアニバーサリーレストランや結婚式場としても利用されている。これからも、地域の方にも観光客にも必要とされる施設として事業を展開し、持続可能なまちづくりを進めていくとのことであった。

○調査日：令和5年8月23日

調査先：山口大学教育学部（山口県山口市）

調査事項：山口大学教育学部・附属小中学校歴史給食プロジェクトについて

「山口大学教育学部・附属小中学校歴史給食プロジェクト」は、山口県の歴史を学校給食と食育に取り入れることにより、ふるさと山口県の歴史や伝統文化に対する関心を高め、文化継承の大切さに気付き、郷土への愛着や郷土を誇りに思う心を育むことを目的として令和3年から実施された。

歴史食とは、山口県商工会議所が提唱した歴史的な復元食や歴史にインスパイアされて開発された「歴史的なストーリーを有した価値ある食」のことで、山口県では明治維新150年のイベントで慶応2年の毛利藩主とイギリス海軍提督との会見時の日英饗応料理と藩主が参勤交代時に食べた弁当をもとにした参勤交代弁当を再現した。この再現料理を学校給食に取り入れるための検討を進めたことが歴史給食プロジェクトの始まりである。

歴史給食は、令和3年に山口大学教育学部附属光小学校・光中学校で、令和4年には同大学附属山口小学校でも実施された。歴史を給食へ展開するにあたって、栄養価、食材費、調理時間等を考慮し品数を制限することになったが、一つ一つもてなしの心で配膳するよう声掛けるなどして饗応料理を理解する工夫を行い、また、参勤交代弁当では、子どもたちが自分で当時の再現料理を弁当箱に詰め、外に出て食べることで歴史への興味関心を高める工夫を行った。今後も、継続的な活動とするためには、食材費や弁当箱代などの予算の確保が課題となっている。

同時に行った食育では、写真と映像で歴史的背景や料理の特徴を説明し、併せ

て、歴食給食を家庭科の授業の題材に取り上げ、献立の改善方法や栄養バランスについて考えてもらうことで、子どもたちからは、歴史や和食、文化への関心が高まるなど食を通じて学びを深めている。今後は附属の小中学校だけでなく、県内の学校に拡大し実施できるよう活動していくとのことであった。

### 3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和5年9月、文化庁京都移転記念事業Opening Celebration「きょう ハレの日、」を開催した。
- 令和5年10月、けいはんなオープンイノベーションセンターにおいて、国内外で注目を浴びるフードテックに注目した産業振興を図るため、京都の食文化や食材と最先端技術との融合を目指す展示会「京都フードテックエキスポ2023」を開催した。
- 令和5年10月、京都府の文化・芸術の力を生かし、アートとテクノロジーを融合させた新たな産業を創造し、起業を促すとともに、次世代を担う起業家や企業の中核を担う人材育成を行うためのオープンイノベーション拠点、「アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（ATVK）」を開設した。

### 4 今後の課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 文化・観光・経済の好循環に結び付く文化と産業を融合させる取組の推進
- 次世代の子供たちが、学校教育や地域行事を通じて文化を大切にする心を育てる取組の推進
- 社寺や民俗芸能などの有形・無形の文化財を継承・発展させる取組の推進
- 文化庁と連携した新たな日本文化発信の取組の推進

# 文化力と価値創造に関する特別委員会 活動状況

(令和5年5月～令和6年5月)

年月日	区分	主な内容
5. 5.26	委員会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 15	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 15	委員会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 22	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
7. 3	委員会	1 所管事項の調査 「文化庁の京都移転と今後の文化施策の展開について」 参考人：文化庁 参事官（生活文化創造担当） 食文化推進本部事務局長 高田 行紀 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
8. 22 ～23	管外調査	▷ 福岡市役所[於：Artist Café Fukuoka] ▷ 大野城市役所[於：大野城心のふるさと館] ▷ 古民家宿泊施設「HOTEL CULTIA 太宰府」 ▷ 山口大学教育学部
9. 8	管内調査	▷ 文化庁京都移転記念事業 「きょう ハレの日、」記念式典 (行催事等委員会調査)
9. 20	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
9. 29	委員会	1 所管事項の調査 「食文化の継承と活用について」 参考人：ふじのくに地球環境史ミュージアム 館長 京都府立大学 京都和食文化研究センター 客員教授 佐藤 洋一郎 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
11. 11	管内調査	▷ 京都伝統文化の夢舞台 (行催事等委員会調査)
12. 8	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12. 17	管内調査	▷ 令和5年度全国高校生伝統文化フェスティバル (行催事等委員会調査)

年月日	区分	主な内容
12.19	委員会	1 所管事項の調査 「メディア文化と先端テクノロジーの融合によるコンテンツイノベーションの創出について」 参考人：立命館大学 映像学部 教授 細井 浩一 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
6. 2. 6	管内調査	▷ 第42回京都府文化賞交流会 (行催事等委員会調査)
2.25	管内調査	▷ 京都・和食の祭典2024～京の食文化発信～シンポジウム (行催事等委員会調査)
3.18	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
3.19	委員会	1 所管事項の調査 「アートとテクノロジーの融合による新たな文化と産業の創造について」 参考人：学校法人瓜生山学園 常務理事 京都芸術大学 空間演出デザイン学科 教授 大野木 啓人 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
5.23	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5.23	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※ 発言内容は別紙のとおり

委員会 7回  
正副委員長会 6回

管内調査 5回 ( 5日)  
管外調査 1回 ( 2日)

## 文化力と価値創造に関する特別委員会 管内外調査実施状況

### 1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 9. 8	▷ 文化庁京都移転記念事業 「きょう ハレの日、」 記念式典
	5. 11. 11	▷ 京都伝統文化の夢舞台
	5. 12. 17	▷ 令和5年度全国高校生伝統文化フェスティバル
	6. 2. 6	▷ 第42回京都府文化賞交流会
	6. 2. 25	▷ 京都・和食の祭典 2024～京の食文化発信～シンポジウム

### 2 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 福岡市役所[於：Artist Café Fukuoka]                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「Fukuoka Art Next」の取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 大野城市役所[於：大野城心のふるさと館]                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野城心のふるさと館での先端テクノロジーを使った取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 古民家宿泊施設「HOTEL CULTIA 太宰府」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的資源を活用したまちづくりについて</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 山口大学教育学部                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山口大学教育学部・附属小中学校歴食給食プロジェクトについて</li> </ul> </li> </ul>

## 行催事等に係る委員会調査の結果概要について

文化生活部

行催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	年 月 日
松尾大社展 みやこの西の守護神	京都府、京都文化博物館、 松尾大社、朝日新聞社	京都文化博物館 (京都市中京区)	令和6年4月26日(金)